



Partners for Better Health

# 三次元SPECT/CTによる 顎骨疾患の評価

●日時 2017年 **10月21日**(土) 11:40~12:30

●会場 第4会場 (国立京都国際会館2F Room B-2)

座長

慶應義塾大学 医学部  
歯科・口腔外科 准教授/口腔外科部門長

**河奈 裕正** 先生

講演

慶應義塾大学 医学部  
放射線科学教室(診断) 准教授

**中原 理紀** 先生

【ご参加には整理券が必要です。】

配布場所 / 国立京都国際会館 1F メインエントランス  
配布日時 / 参加受付開始時刻からセミナー開始30分前まで  
(ただし、無くなり次第終了)

※整理券をお持ちの方から優先的に聴講いただけます  
※整理券の発行は、お一人様1枚に限らせていただきます  
※整理券は、セミナー開始直後に無効になります  
※セミナー開始時点で空席がある場合は、整理券をお持ちでない方も入場いただけます

共催：第62回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会  
日本メジフィジックス株式会社 / GEヘルスケア・ジャパン株式会社

# 三次元SPECT/CT による 顎骨疾患の評価

座長

慶應義塾大学 医学部 歯科・口腔外科 准教授/口腔外科部門長

河奈 裕正 先生

演者

慶應義塾大学 医学部 放射線科学教室(診断) 准教授

中原 理紀 先生



中原 理紀 先生

骨シンチグラフィは顎骨疾患に対する画像評価法の1つとして用いられているが、特に下顎骨は解剖学的に前後左右および上下に広がる複雑な構造を有し、骨代謝異常の範囲を正しく評価するためには少なくとも正面および両側面の3方向を撮像する必要があった。しかし、SPECTと呼ばれる核医学断層画像撮像法が普及し、さらにCT装置とSPECT装置が一体型となったSPECT/CT装置が登場したことにより、CTとSPECTを一回の検査で行えるという患者側のメリットだけではなく、両者の画像を位置ズレなくフュージョンさせて、形態情報と機能情報を同時に得ることが可能となった。

しかし、口腔外科医ならびに患者本人の立場になってみると、複雑な解剖学的構造を有する下顎骨を断層表示させてもイメージが浮かばないことが多い。そこで我々は、顎骨に限らず、人体のあらゆる骨を3次元表示化(3D SPECT/CT)する研究に着手し、通常臨床において140例を超える顎骨疾患患者に対し3D SPECT/CT画像を作成してきた。口腔外科の先生方からは顎骨骨髓炎の活動性評価・下顎頭吸収の評価・口腔癌の顎骨浸潤評価などに有用であることに加え、患者様に治療の必要性を納得してもらうのに3次元画像の威力が絶大であるとのご評価をいただいている。近年は患者本人が自分の病態を把握・納得したうえで治療に同意する時代となってきており、わかりやすい画像を提供することは非常に重要だと考えている。

本セミナーでは、3次元画像作成の基本的な部分を簡潔に説明させていただき、疾患ごとに症例を供覧してその有用性について述べさせていただきたいと思っている。また、今後の課題として、3次元画像作成時の問題点や、どの施設でも3次元画像を作成できるようなソフトウェアの開発計画についても多少説明をしたいと考えている。

慶應義塾大学病院以外では見慣れない画像を提示いたしますので、まずは一度ご覧いただきたい。